

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
1児童が意欲的に学習に取り組み、言語力など基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、問題解決能力や情報選択活用力を育成する授業づくりを充実させ、学力の向上を図る。 2児童一人一人の教育的ニーズを把握して適切な支援を行い、全教員がユニバーサルデザインに基づいた授業力の向上を図る。 3地域と連携した学習活動や、SDGs(持続可能な開発目標)の視点を取り入れた活動などを通して、周りのために貢献しようとする意識を高め、豊かな心を育む。 ・教科横断的な視点で、言語活動に取り組むことや、国語辞典の積極的な利用など言葉に対する意識を高めることで、言語力の育成を図る。 ・持続可能な社会を意識したSDGsと教科教育との滑らかな連携を図り、異学年交流の機会を増やししながら、自己理解や課題に対する実践力、自己肯定感・自己有用感の向上を図る。 ・各教科において、「見通しをもたせるための導入」による主体的な学習態度や、「振り返りの記述」による自己理解の姿勢を培う。 ・Google for Educationの協働編集機能の活用や実際の話し合いを通して、「価値ある対話の共有」の深い学びにつながる観点や方法を取り入れ、主体性や言語力の向上を図る。 ・一人一台のタブレット端末や学習支援コンテンツを活用し、個別最適化した学習を提供し、自ら進んで学習する主体性を高める。

授業改善の重点
1 基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・国語科では言語への関心を高め語彙を増やすために、積極的に国語辞典を使用させる。算数科では基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるために毎時間全員の理解度を確認する時間を設定する。 2 1時間の学習の流れを確立 ・「導入→課題把握→自分の考えをもつ→視点を明確にした考えの共有→(練習問題)→振り返り」という基本的な流れに沿って授業を進める。 3 ICT機器の効果的な活用 ・主体性や言語力の向上につながるように、個別最適化した学習を提供するためのICTの取り入れ方を工夫する。 4 安全で安心な授業計画 ・学習内容に合わせて、場の設定や教材の扱い方の指導を確実に行う。 5 家庭学習の習慣化 ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習に臨む態度の統一を図る。「家庭学習がんばりカード」を年3回2週間実施実施することで家庭学習の習慣化を図る。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	・教科横断的な視点をもって、導入の段階でどのような言語活動に取り組めるかを考えて単元の見通しをもち、国語辞典を積極的に利用して、言葉に対する意識や語彙力を高め、言語力の育成を図る。 ・読書月間の設定や地域サークルによる全学級での読み聞かせを通して、読書活動を推進し、言語力を高めるとともに、調査活動の目的に合った資料の見つけ方を通して情報選択活用力を伸ばす。	・演奏する楽しさを味わわせるために必要な基礎・基本の技能を定着を図るため、復習時間や個別練習時間をより多く設ける。 ・身に付けた基礎・基本の技能を活用し、題材にや各学年に合わせた表現の工夫につなげる。 ・ICTを活用し、導入で学習内容の見通しをもたせたり、主体的な学習を促したりし、学習意欲の向上を図る。		
	社会科	図工科		
	・社会的事象を調べた事実だけではなく、そこから意味や願いを様々な立場や広い視野から考える力を養う。 ・資料の中から必要な情報を得るために課題提示や教材の工夫を行う。 ・単元の終末には学習したことを基に、地域社会の一員としての自覚をもって、自分の行動目標をたてる。	・よく考えながら自分の表現を見付け、つくり出す喜びを味わうことができるよう、様々な素材や用具に触れさせたり、題材を工夫したりする。 ・適宜、振り返りを取り入れ、学びを実感させる。 ・自分や友達、様々なもののよさを感じ取りながら自分の見方や感じ方を広げ、深められるよう鑑賞の時間を充実させる。 ・刃物等を使用する題材では場の設定や道具の扱い方の指導を確実にを行い、安全で安心な授業を実施する。		
	算数科	家庭科		
	・問題文を読み、図などをかいて、具体的な場面をイメージできるようにする。 ・「振り返りの時間」を確保し、自分の言葉で本時の学習について振り返ることで、主体的に課題解決できる姿勢をのばし、より深い学びにつなげる。 ・デジタル教科書を活用し、視覚的に理解できるようにする。特に、面積を求める学習では、公式の成り立ちをICT機器を用いて視覚的に捉えられるようにする。	・一人一人の技能が確実に身に付くように、大型提示装置やChromebook等を活用し視覚的に理解しやすい環境を整える。 ・家庭や地域で生かすための視点をもたせるように課題の提示の仕方を工夫する。 ・日常生活の中から児童自身が問題を見いだして課題を設定し、自らの実生活を振り返りながら児童自身がSDGsカードにできることを記入する。 ・刃物や火、ガスを使用する題材では場の設定や道具の扱い方の指導を確実にを行い、安全で安心な授業を実施する。		
	理科	体育科		
	・日常生活の中の事象例や具体物などの身近な題材を取り上げたり、前の時間に学んだ内容を結び付けたりすることで学習の見通しをもたせる。 ・理科の「予想→実験→予想の見直し→考察→新たな課題」の展開を通して、知的な楽しさを触発させ、振り返りの場の設定をすることで学びが深まるようにする。 ・ガラス器具や薬品、火を使用する単元では、場の設定や道具の扱い方の指導を確実にを行い、安全で安心な授業を実施する。	・体力向上推進プランに基づいた授業改善、また、安全な体育の指導のための教員研修会を設定し、指導法の伝達を行う。 ・生涯体育を目指し、休み時間の外遊びを推進したり、縄跳びや持久走の取組期間を設定したりして持久力の定着を図る。 ・ICT機器を活用し、手本となる動きや練習方法等を動画で提示したり、自分の試技を撮影したりして、シェアリングや振り返り、自己評価、課題設定等に生かす。		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
	・スタートカリキュラムを通して、就学前教育を生かした適切な指導・支援を行う。 ・学習の終わりには、振り返りをカードにまとめたり、クラス内で話し合ったりするなど、自分なりに考え、表現できるようにする。 ・学習内容に合わせて、事前に初めて扱う道具の使い方や、屋外学習での歩き方を事前に安全指導を確実に行う。	・授業の流れとめあてを明確にすることで、学習への見通しをもたせる。 ・ICT機器を用いて、毎時間デジタル教材の音声を聞かせたり、アクティビティを取り入れたりして、身に付けるべき知識や技能の定着を図る。		
			特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
			・話し合い活動では、活動や対話の「見える化」を図り、自他を認め合い、自分の成長を実感させる学級活動の充実を図ることで、合意形成する力を育成する。 ・児童会活動、クラブ活動、縦割り班活動を通して、互いに尊重し協力、より良い関係を築こうとする力や課題対応力を育てる。	・学校公開で道徳の授業を行うことなどきっかけづくりをして、家庭でも、道徳的価値について子供と一緒に話し合うように呼びかけ、地域や保護者と連携して道徳教育の充実を図る。 ・学年の内容項目を適切に指導・評価し、自己の生き方について考えられるように、ワークシートを活用する。

	ICT機器の活用	見通しをもたせる導入	振り返りの設定
本校の授業改善に向けて	・G suite for Educationの協働編集機能を活用し、深い学びにつながる観点や方法を取り入れ、主体性や言語力の向上を図る。 ・一人一台のタブレット端末や学習コンテンツを活用し、個別最適化した学習を提供し、自ら進んで学習する主体性を高める。	・単元名、学習の流れを明示し、めあては、児童が自分で言語化できるように指導する。 ・「学習問題(課題)」及び「仮説(予想+理由)」を立て、児童の興味・関心を高める。	・授業の最初に前時の振り返りの内容を確認し、単元を通したねらいや既習内容を理解できるようにする。 ・授業の後半に振り返りをする時間を設定する。 ・「学習感想の書き方」を掲示し、全学級が同じ観点で書けるようにする。 ・「めあて」が達成できたかを確認し、確実な学びの習得につなげる。